



●全国大会 [東京] '23 発表募集

6月の全国大会の、研究発表、カラーデザイン作品発表の受付が開始されました。

詳細は学会ホームページを参照のこと。

【発表募集期間】1月16日)～2月6日

◆研究発表：募集内容は著者が最近行ったオリジナルで未発表の研究。①色覚・生理 ②測色・表色・色差 ③色光・色材(照明, 光源, 染料, 顔料など) ④色彩情報(記録, 再現, 画像処理, 分析・評価など) ⑤色彩心理(感覚・知覚, 認知, 感情, 調和など) ⑥色彩文化(色彩史, 民族・風土・伝統の色など) ⑦色彩芸術(美術, デザインなど) ⑧色彩教育 ⑨色彩と肌・コスメティクス ⑩色彩環境・建築の研究発表 ⑪色彩と服飾・ファッション ⑫色彩応用・その他。

◆カラーデザイン作品発表：(A) ファッションカラーデザイン(服飾・メイク・ネイル・ヘアメイク・パーソナルカラーなど) (B) 商品カラーデザイン(商品企画・広告など) (C) 環境カラーデザイン(建築・土木・インテリア・パブリックデザイン・景観色彩計画など) (D) その他(アート性の強い作品、錯視デザインなど)。

◆指定の発表申込書により申込むこと。

(学会ホームページから引用)

●私の好きな色「白緑」

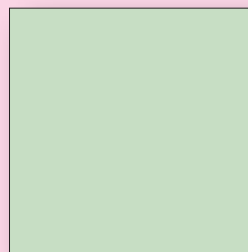
淡い緑色の顔料の名前。天然の原料は孔雀石で、この鉱石を細かく砕いて粉末にしたものが緑青。その緑青より細かい粉末のものが白緑。一般に染色の薄い色の修飾語には、薄、浅などがよく使われ、白という形容詞がつくことは珍しいが、顔料の粉末の粒子が細くなるほど、その表面に当たる光はあらゆる方向に拡散反射され、緑青の緑色よりもずっと白っぽい色に見える。この色名はそのような顔料の色の見え方を表現したもの。

白緑は奈良時代、寺院の仏像や仏画の彩色に重用された。

【孔雀石に関するその他の色】

「緑青」孔雀石からつくる顔料。くすんだ緑。「孔雀緑」孔雀石の粉末で染めた色。強い青緑。「岩緑青」孔雀石を原料にする岩絵具の一種。明るく渋い緑。

「マラカイトグリーン」マラカイトは孔雀石のことで、天然の炭酸銅の岩緑青の名前。濃い緑。



●白緑(びやくろく) [ごく薄い緑] 2.5G 8.5/2.5

参考文献：福田邦夫著『決定版 色の名前 507』

内田広由紀著『定本 和の色事典』。(森加なつ美)

●日本画の色「金・銀」

日本の美術鑑賞で「金・銀」の色を大和絵や琳派の屏風や襖絵、障壁画、工芸の蒔絵などに見ることがある。

「金・銀」は例えば障壁画などの大きな面積の「金地」「銀地」、花鳥など動植物が描かれる背景などに使用。諸説あるが、平安時代の和絵などから始まったと言われている。

華麗、きらびやかさが特徴で、権力者や富裕階層の富の象徴とされ、そして高価であり、希少価値が高いとされてきた。一方で神社仏閣や大仏にも使われる神聖な色でもある。

金箔、銀箔、裏箔、赤金、青金、砂子など「金銀の画材」や技法の用語があるが、仏画の光背などの表現に裏箔などの技法で施された作品を見る機会があった。表面からは、やわらかい金箔、銀箔の色が微かに見える。

和色名の「金色」と「銀色」が、光沢のある「金属色」として、JISの慣用色名にある。「金色」は、きんいろ、こんじきと読み、黄金色(こがねいろ)とも言う。色は赤みの黄辺りである。「銀色」は、ぎんいろ、しろがねいろと読み、色は白色、明るい灰色辺りの色を示す。改めて憶えておきたい。

「金・銀」は装飾性が非常に高く、目をひく美しさがある。(瀧川優子)